

新宮山彦ぐるーぷ第2007回
行仙宿巡回と榎木採取

◇実施日：平成31年01月20日(日) 曇り後小雨 気温6℃
◇参加者：沖崎吉信、児嶋道夫、川島 功、生熊敏男・千満子。

5名。

作業内容

- ・行仙宿補給路・小屋内の点検。
- ・シイタケ用榎木の採取(22本)。
- ・カマド煙突接点部の点検。
- ・志納金の回収。

持込品

- ・チェンソー(大)；1台。
 - ・靡看板；2枚(行仙岳、怒田宿)。
- 次回以降の課題
- ・煙突と壁の接点の防火対策。
 - ・ロケットストーブ周りの柵設置。

児嶋さんは、12月初旬に目の手術をされ、しばらく山もご無沙汰している。先日会った時、年令的なこともあってか、身体が鈍(なま)っている。ちよこちよこ山を歩かんとだめだとの話があった、今度玉置山辺りドライブも兼ね少し歩きに行くかとの話になった。その後、私の家に立寄ってくれた川島、生熊さんも同行することとなる。

前日に玉置神社へ電話し路面や積雪の事を問合せると「雪の量は例年より少ないが、かなり凍結している。十分に気をつけて下さい」との話し、又天気予報も日曜日は午前中雨で、どうしたもんかと悩んでいたが、その日の午後2時頃か、市内で火事が発生し2軒が全焼となったが、話を聞くと薪風呂で煙突の加熱ではないか、煙突掃除をしていたが壁との接点の防火対策していたの

かなどの話を聞き、急に小屋のことが気になり行仙宿行とした。当日5人が沖崎車1台で7時30分出発。

一時間で浦向三叉路に着くが、見える山に雪はない。425号に入るも雪はなく、俱利伽羅谷にかかる橋も凍結していない。

9時前登山口に、ここまで凍結や雪はなく、林道への落石もなかった。

生熊さん運転で大半をモノレールで揚げ、他4人は補給路を歩く。水場の水は、凍結もなく細い水流である。

終点地で各々が分担し荷揚げ、村吉さん作製の靡看板は、ずっとしりとかかなりの重さがあり、丈夫に作ってくれたことが判る。

高圧線下の雑木が伐採されているか期待していたが、ダメだった、もう少し暖かくなってからだろう。



モノレールに積込み



登山口水場の流れ



行者堂に到着

このあたりから心配していた雨が降り出して来た、やや急ぎ足で行仙小屋へ。尾根上は少々風もあってやはり寒い。温度計は6℃をさしていた。この時期としてはこんなものかと小屋へ入る。今日は、特別のテーマがない中、川島さんより前回チェンソーが途中から作動せず榎木1本切除で中断のため、シイタケ用の榎木を採取することと、川島、生熊、沖崎の3名が、雨具着用し戸外へ。児嶋さんと千満子さんには、カマド煙突等の防火具合

の点検と小屋内点検をお願いする。

楳木は、カラ池近辺でミズナラ2本を伐採して、長さ二〇cmの楳木17本と前回伐採した木から5本採取し、計22本の楳木を確保した。前回確保済と併せ26本をデポする。

春頃に菌打ちを行い、来春には立派な行仙シイタケが賞味できるか楽しみだ？

小一時間で作業を終え、11時頃から昼食とした。



楳木用ミズナラ伐採



腐倒木撤去



ストーブを囲み昼食

児嶋さんから煙突のスス取りは、年末の迎春準備の際にやったので心配ないが、カマド上の接点部分は一工夫必要で、次回に対処するとの話であった。

ストーブを囲み5人が車座となる。途中、児嶋さんは持参のベークンをフライパンで炒め、皆さんに配るべく立ち上がった時、囲炉裏端のレンガを踏み外しストーブにもたれかかり、左手がストーブに触れ軽い火傷をした。オロナイン軟膏で応急処置し、大事に至らなかったが、もう少し勢いがあったらストーブ上に湯の入った「ヤカン」もあってゾツとした。何が起きるか、何処にリスクがあるか判らない。ストーブを囲む柵の設置も課題とした。志納金六千円回収、年末年始3人が利用したようだ。

小雨も止まず12時半前には下山し、登山口に着く頃には雨が

止んでいて、13時に帰路に着いた。



下山時モノレール終点で、モノレールカバー掛け

帰宅後、畑林清ちゃんと話したら、田中律子さんが行仙宿でカマドを使用した時は、退宿前に必ずカマド周りに水をかけていた話を伺った、我々も細心の注意が必要である。

行動タイム

新宮7:30→8:50 登山口8:55→9:40 行仙宿10:05→作業→11:00 行仙宿(昼食)12:20→12:50 登山口13:00→14:25 新宮。

翌日、下北山村役場の上平君より電話が入り、425号線の実利行者分骨碑近辺で大規模な工事をやる。2月4日〜3月22日迄の間、日曜・祭日・夜間も全面通行止めで歩行通行も出来ないとのこと。21世紀の森〜白谷トンネル東口間の冬期通行規制(3月7日迄)もあって、しばらく行仙宿へも笠捨山登山も出来ない。尚、2月3日の行仙宿巡回と旧通信道・浦向道踏査の行事は、実行します。

(記：沖崎、写真：川島)